

# 大日本スクリーン製造株式会社 2014年3月期 第2四半期 決算説明会

2013年11月5日

取締役社長 最高執行責任者(COO) 橋本 正博

## 本日のアジェンダ

- ・2014年3月期 第2四半期 連結業績
- ・事業状況
- ・今後の取り組み
- ・2014年3月期 連結業績予想

### 資料取り扱い上の注意

・本資料および口頭にて提供する業績予想は、当社が発表日現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。  
・本資料に記載しております数字につきましては、単位未満切捨てで処理しております。比率は百万円単位で計算した結果を四捨五入して処理しております。

本日の決算説明会の内容：

- ・2014年3月期 第2四半期 連結業績結果
- ・各事業の状況
- ・今後の取り組み
- ・2014年3月期 連結業績予想

注：各事業セグメントは文中では以下の略号にて表現しています。

- ・SE (半導体機器事業、以下SE)セグメント
- ・FE (FPD機器事業、以下FE)セグメント
- ・MP (メディアアットプレジジョンテクノロジー事業、以下MP)セグメント
  - >>MT部門 (印刷関連機器、以下MT)
  - >>PE部門 (プリント基板関連機器、以下PE)

2014年3月期 第2四半期  
連結業績

(単位：億円)	2013/3期					2014/3期				
	実績(据付完了基準)					実績(据付完了基準)			前年 同期比	8/9予想
	1Q	2Q	累計	3Q	4Q	1Q	2Q	累計	累計	累計
売上高	666	428	1,094	348	554	593	518	1,111	16	1,090
SE	516	280	797	235	373	433	323	756	▲40	750
FE	48	20	69	20	30	41	68	109	40	100
MP	99	125	225	90	147	116	124	241	15	235
印刷関連機器 (MT)	89	107	196	81	123	100	104	205	9	200
プリント基板関連機器 (PE)	10	18	28	9	23	15	19	35	6	35
その他(外部売上のみ)	1	1	3	1	2	1	2	3	0	5
営業利益	31	▲44	▲12	▲48	12	22	8	30	43	25
SE	36	▲44	▲7	▲31	1	21	7	28	36	-
FE	2	▲5	▲3	▲5	▲0	1	▲1	0	3	-
MP	▲3	10	7	▲6	14	4	5	10	3	-
その他および調整額	▲4	▲4	▲9	▲4	▲3	▲4	▲4	▲8	0	-
経常利益	33	▲47	▲14	▲52	16	22	3	26	40	21
当期(四半期) 純利益	20	▲89	▲69	▲53	9	16	▲1	15	84	15

\*SEは半導体機器事業、FEはFPD機器事業、MPはメディアアンドプレジジョンテクノロジー事業を示す。  
\*2013年3月期のSE、FEは据付完了基準を遡及適用して記載しています。

DAIIPPON SCREEN MFG. CO. LTD.

2

#### 2014年3月期 第2四半期累計業績（前年上期との半期比較）

##### ■売上高：前年同期比16億円増加（+1.5%）し、1,111億円

- ・ロジックメーカーの投資減少によりSEセグメントは減少
- ・中国での投資増加によりFEセグメントは増加
- ・PODの増加によりMPセグメントも増加

##### ■営業利益：前年同期比43億円改善し、30億円の黒字

- ・収益改善に向けた変動費削減や緊急対応策継続による固定費圧縮などによる
- ・特にSEセグメントは、売上は40億円減少したが、営業利益は36億円改善

##### ■経常利益：前年同期比40億円改善し、26億円の黒字

##### ■四半期純利益：前年同期比84億円改善し、15億円の黒字

##### ■売上、利益ともに、2013年8月9日に発表した上期業績予想を上回った

**売上高** 2Q実績 518億円・1Q 593億円 (1Q比: 74億円減少)

(単位: 億円)

セグメント	2Q実績	1Q実績	差額	差異のポイント
SE	323	433	▲ 110	コーターデベロッパーは増加、洗浄装置 (バッチ式、枚葉式) が減少 地域別では、北米、欧州は増加したが、台湾が大幅に減少
FE	68	41	27	TV用大型ガラス基板用装置に加え、中小型ガラス基板用装置も増加
MP	124	116	7	
MT	104	100	3	CTPが国内外で増加。PODは欧州の減速などにより減少 インクは堅調に推移
PE	19	15	4	直接描画装置が堅調に推移

**営業利益** 2Q実績 8億円・1Q 22億円 (1Q比: 13 億円減少)

(単位: 億円)

セグメント	2Q実績	1Q実績	差額	差異のポイント
SE	7	21	▲ 13	変動費率改善、工場稼働度上昇効果はあったが、 売上大幅減少により限界利益が減少
FE	▲ 1	1	▲ 2	工場稼働度の低下とプロダクトミックスの影響による減益
MP	5	4	1	売上増加による増益

## 第2四半期の各セグメント別状況 (第1四半期との四半期比較)

## ■SEセグメント:

売上高: 323億円 (第1四半期比110億円減少)

ファンドリーが投資タイミングの谷間で減少

製品別は、コーターデベロッパーは増加、改造も増加  
洗浄装置が減少

営業利益: 7億円 (第1四半期比13億円減少)

変動費率の改善、工場稼働度の上昇などによる利益押し上げに  
より、売上の大幅な下落に対して営業利益の減少は小幅

## ■FEセグメント:

売上高: 68億円 (第1四半期比27億円増加)

中国向け売上が増加

営業利益: ▲1億円 (第1四半期比2億円悪化)

売上は増加したが、プロダクトミックスの影響に加え、  
工場稼働度の低下などにより減益

## ■MPセグメント

売上高: 124億円 (第1四半期比7億円増加)

・MT部門 売上高: 104億円 (第1四半期比3億円増加)

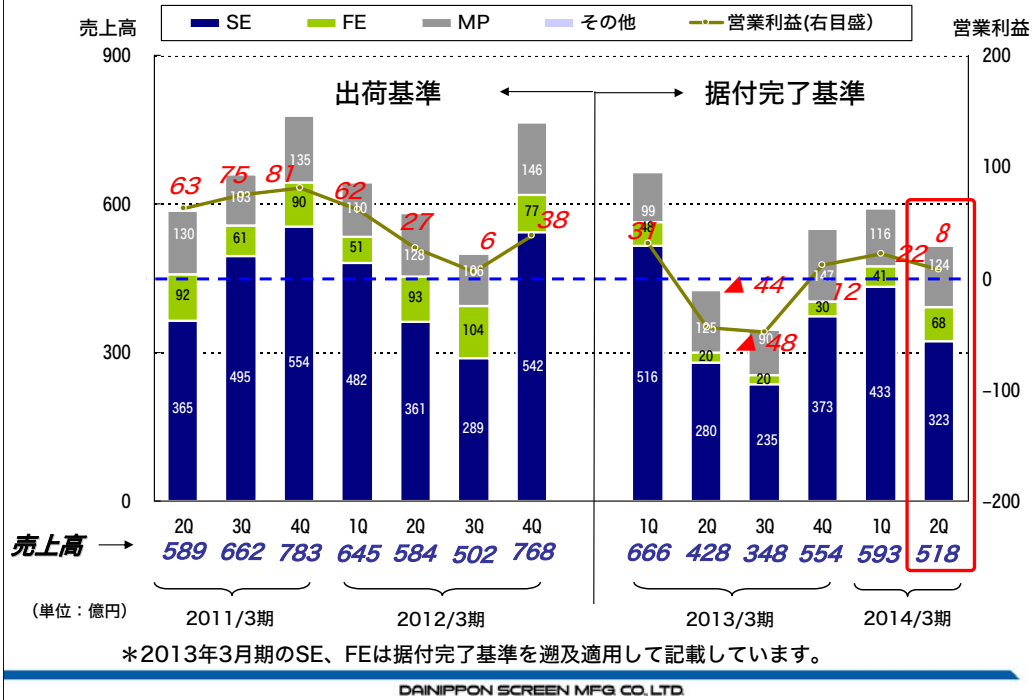
CTPが国内外で増加

・PE部門 売上高: 19億円 (第1四半期比4億円増加)

直接描画装置「Ledial 5」が増加

営業利益: 5億円 (第1四半期比1億円増加)

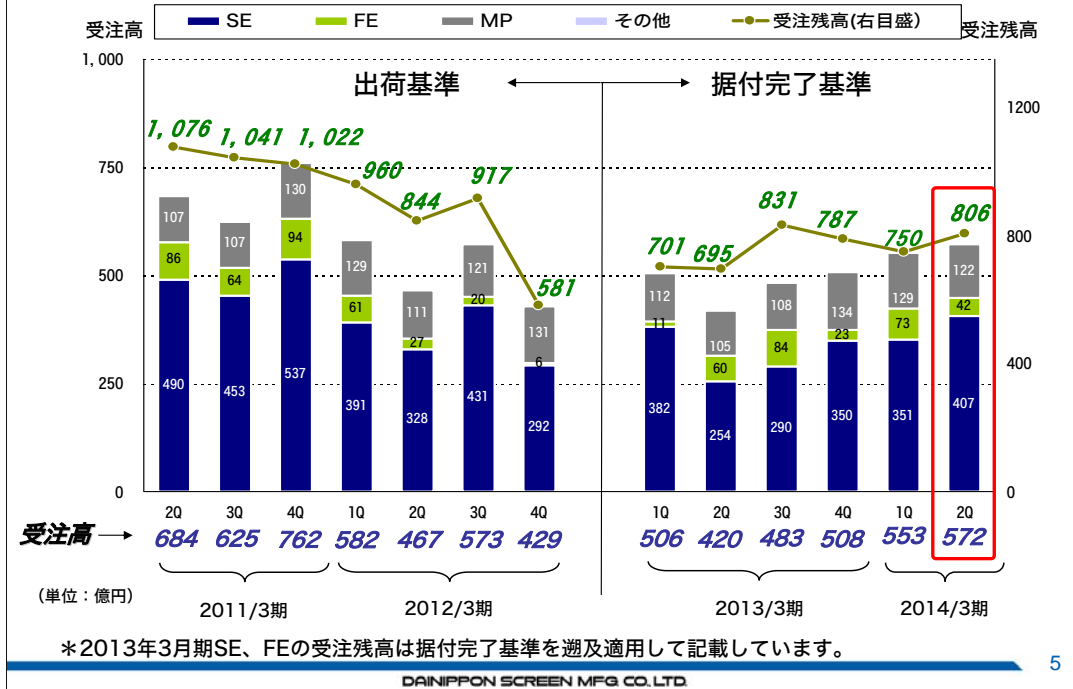
売上増加による増益



売上高と営業利益の四半期推移グラフ

第2四半期において、

- 売上高：第1四半期に比べて74億円減少し、518億円  
FEセグメント、MPセグメントは増加したが、SEセグメントが大幅減少
- 営業利益：第1四半期に比べて13億円減少し、8億円  
主に売上の減少による



セグメント別受注高・受注残高の四半期推移グラフ

■第2四半期の全社受注高：572億円（第1四半期比18億円増加）

■SEセグメント：

2013年8月の決算発表時は、第1四半期より減少すると予想したが、期中でファンドリー向け受注が急増し、第1四半期より増加し、407億円

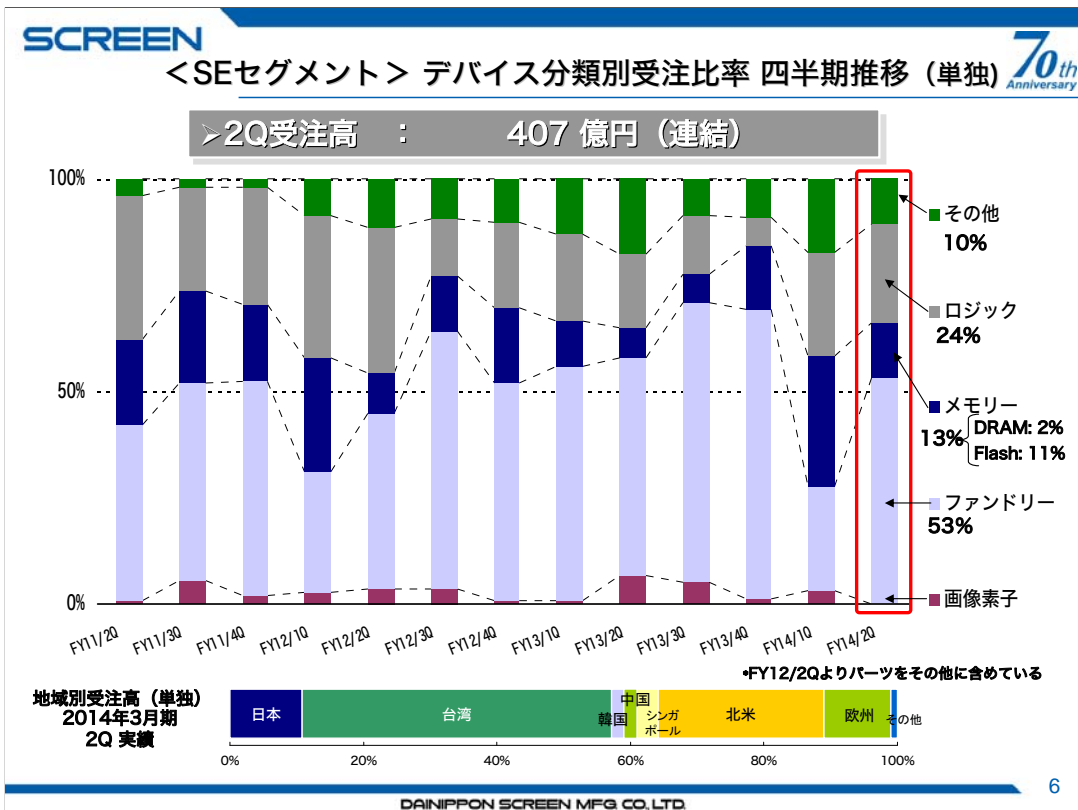
■FEセグメント：

日本向け中小型パネル向け装置を中心に、42億円

■MPセグメント：

PEは第1四半期に比べて増加したが、MTが減少し、MPセグメントとして122億円

■全社第2四半期末受注残高：806億円となり、第1四半期末から56億円増加



### SEセグメントにおけるデバイス別受注比率

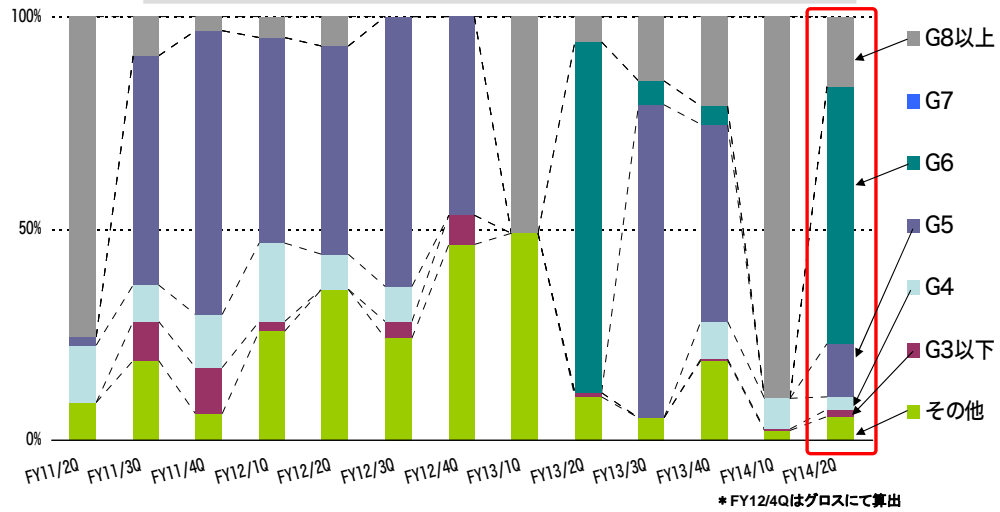
#### ■ 第2四半期

- ・ファンドリーは、台湾メーカーが大幅に増加し、50%を超える比率
- ・ロジックメーカーの動きは、パソコン需要の減少により先行きは不透明であるが、第1四半期同様に堅調な受注が継続
- ・メモリーは、DRAM向けが投資の踊り場

#### ■ 第3四半期見通し

- ・ファンドリー向け投資が堅調に推移することが見込まれることから、好調な第2四半期と同水準が継続すると予想

>2Q受注高 : 42 億円 (連結)



地域別受注高 (単独)  
2014年3月期  
2Q 実績



\* FY12/4Qはグロスにて算出

FEセグメントのガラス基板サイズ別受注

■ 第2四半期：日本向け第6世代装置を受注

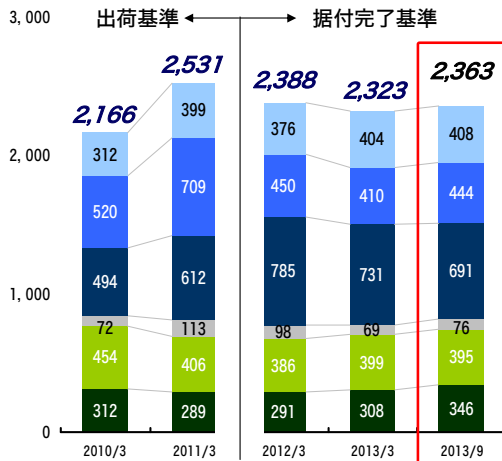
■ 第3四半期見通し：中国向け商談を獲得できる見通しから、第2四半期に比べ倍増を予想



## 資 産

(単位：億円)

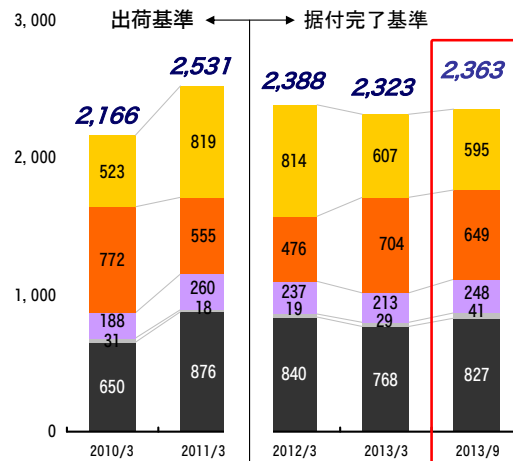
■ 現金・預金  
■ 受取手形・売掛金  
■ たな卸資産  
■ その他の流動資産  
■ 有形固定資産  
■ 無形固定資産・投資ほか



## 負債および純資産

(単位：億円)

■ 支払手形・買掛金  
■ 有利子負債  
■ その他流動負債  
■ その他固定負債  
■ 純資産



自己資本比率 32.8% (2013/3) → 34.8% (2013/9)

\* 2012/3、2013/3は据付完了基準を遡及適用して記載しています。

## 2013年9月末 貸借対照表

## ■ 資産合計：2,363億円（前期末比39億円増加）

たな卸資産、有形固定資産などが減少、受取手形及び売掛金が増加  
また、投資有価証券が保有株式の時価上昇により増加

## ■ 負債合計：1,535億円（前期末比19億円減少）

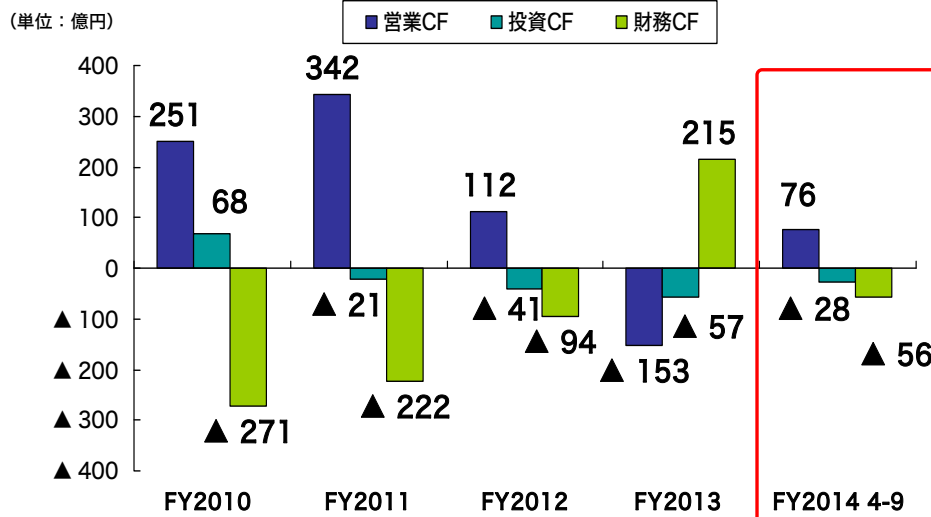
社債を発行した一方、借入金を返済し、有利子負債が減少

## ■ 純資産合計：827億円（前期末比59億円増加）

四半期純利益計上による利益剰余金の増加、保有株式の時価上昇および円安の影響により、その他有価証券評価差額金、為替換算調整勘定がそれぞれ増加

## ■ 第1四半期末の自己資本比率：34.8%（前期末から2.0ポイント上昇）

2Q累計フリーキャッシュ・フロー： 48億円



## キャッシュ・フロー

## ■営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前四半期純利益、減価償却費、たな卸資産の減少などの収入項目が、売上債権の増加などの支出項目を上回り、76億円の収入（前年同期は10億円の支出）

## ■投資活動によるキャッシュ・フロー

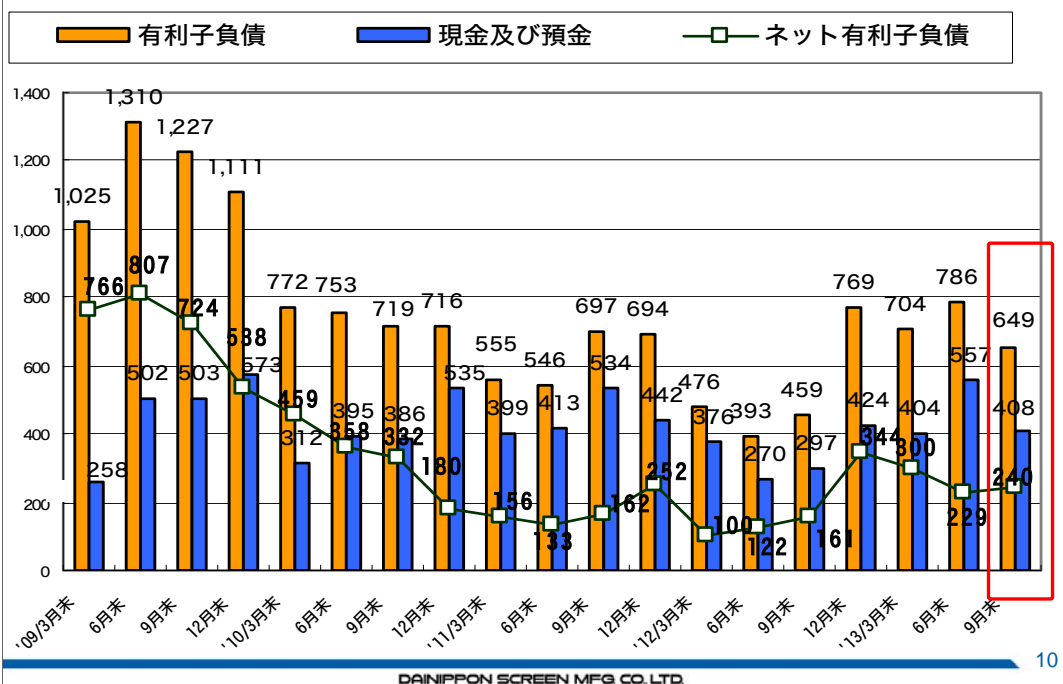
研究開発設備等の有形固定資産を取得したことなどにより、28億円の支出（前年同期は28億円の支出）

## ■財務活動によるキャッシュ・フロー

社債の発行による資金調達を行ったが、借入金を返済したことなどにより、56億円の支出（前年同期は29億円の支出）

## ■当四半期末における現金及び現金同等物：382億円（2013年3月末比 1億円増加）

(単位：億円)



有利子負債の推移

- 第2四半期末有利子負債：649億円
- 有利子負債から現金及び預金を除いた純有利子負債：240億円
- 2013年3月末に比べ59億円改善

# 事業状況

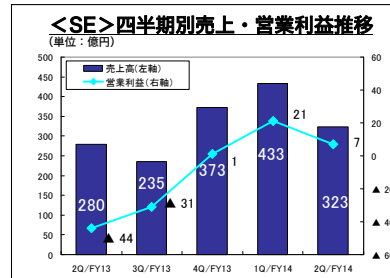
## SE

## 2Qの状況

- 投資の端境期で売上は1Q比減少  
(8月予想から6億円上ぶれ)
- 受注はファンドリーの積極的投資により  
想定を上回る
- 上期の変動費率は前期同期比改善
- コーターデベロッパーは着実に回復
- SOKUDO社株式を取得し完全子会社化(9月27日)

## 3Q以降の見通し

- 好調な受注状況を反映し、下期業績予想を修正
- 2014年製造装置市場は10%程度の伸びを予想



\*FY13は据付完了基準に遡及適用して記載

## SEセグメントの状況

## 第2四半期：

- 第2四半期売上：ファンドリーが大幅減少し、第1四半期より110億円減少  
ただし、2013年8月予想に比べ6億円上ぶれ
- 第2四半期受注：ファンドリー向け投資がけん引し、第1四半期比16%増加
- 収益改善に向けた取り組みとして上期の変動費率は前年同期比に比べ改善
- コーターデベロッパーが順調に回復。下期は想定以上の売上を予想
- 2013年9月27日にSOKUDO社株式をAMAT社から全株取得、完全子会社化

## 第3四半期以降：

- 第2四半期および第3四半期の好調な受注状況を反映し、下期業績予想を修正
- 2014年の製造装置市場は10%程度の伸びを予想  
洗浄装置も、微細化、3D化による投資機会拡大に期待

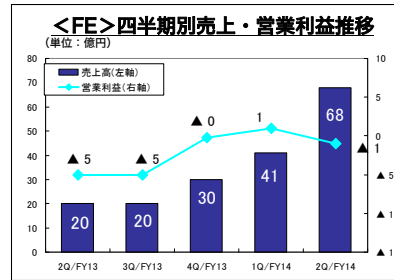
## FE

## 2Qの状況

- ・中国向け投資が堅調
- ・前倒しにより売上は想定を上回る
- ・プロダクトミックスや工場操業度が収益性に影響
- ・日本向け中小型用装置を受注

## 3Q以降の見通し

- ・中国での大型商談の獲得による3Q受注増加を予想
- ・搬入時期のタイミングにより一部売上計上が当下期から次年度へ
- ・有機ELTVの本格投資時期は遅れ気味



\*FY13は据付完了基準に遡及適用して記載

13

DAIIPPON SCREEN MFG CO. LTD.

## FEセグメントの状況

## 第2四半期：

- 第2四半期の売上：一部前倒しの影響もあり（2013年8月予想比10億円増加）、売上が大幅に増加
- 第2四半期の利益：プロダクトミックスの影響や工場操業度の低下などにより、収益性は低下
- 第2四半期の受注：日本での中小型サイズの場合を受注

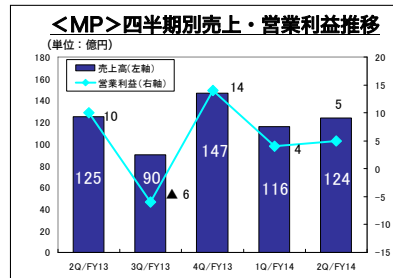
## 第3四半期以降：

- 複数の中国案件の商談が進行中。第3四半期に受注獲得を予想
- 下期売上は、上期に一部前倒しになったことと、来期へずれる案件があることが予想されることから、2013年8月予想より20億円減少（通期ベースでは2013年8月予想より10億円減少）
- 有機ELTVへの本格投資時期は遅れ気味

## MP

## 2Qの状況

- ・印刷関連機器では、アジア・オセアニアが1Q比売上増加  
CTPが国内外で堅調に推移
- ・プリント基板関連機器は、直接描画装置が韓国で好調継続、日本が増加



## 3Q以降の見通し

- ・POD：ラベルプリンターを市場投入、アプリケーションを拡大
- ・CTP：新興国向けにラインナップを充実、中国でのシェア拡大を狙う
- ・直接描画装置：韓国、日本に加え、台湾、中国へも注力

## MPセグメントの状況

## 第2四半期（第1四半期比較）：

## ■MT

売上は第1四半期比3億円増加

地域別では、アジア・オセアニアが増加、日本、北米、欧州は横ばい  
装置別では、CTPは国内外で増加、PODはほぼ横ばい

## ■PE

売上は第1四半期比4億円増加

韓国向けは堅調に推移、日本が増加

## 第3四半期以降：

## ■MT

欧州においては一部に回復の兆しがあるが、厳しい状況が継続

日本、米国においては、PODの拡販に努める

PODについては、リリースしたラベル用PODを日米欧で販促強化

CTPについては、新興国向けにラインナップを充実、主力市場の中国で  
シェア拡大を図る

## ■PE

好調な直接描画装置について、韓国、日本以外に台湾、中国への拡販に注力

# 今後の取り組み



### ■収益改善に向けた取り組み

- ・固定費—当期(通期)：前期比約20億円増加予想  
研究開発を強化  
人件費の増加
- ・変動费率—当期(通期)：前期比SE約3 pt.改善予想  
変動费率低減は進捗  
低減活動を継続強化

### ■事業（製品）基盤の強化への取り組み

- ・(S E) コーターデベロッパーのポジション一層向上
- ・(S E) 洗浄装置の絶対的な地位固め
- ・(F E) 新規分野の早期立ち上げ
- ・(M P) PODの強化、新興国向けにCTP
- ・(新規) 新規事業の拡大

今期取り組み  
を来期以降の  
収益拡大にも  
つなげる

## 今後の取り組みについて

### ■「収益改善に向けた取り組み」

- ・通期の固定費に関しては、前期実績比で約20億円増加する見込み  
売上の増加による固定費増加はあるが、円安影響や研究開発費増額などによる。  
また、繁忙時期においても、社員のモチベーションの維持向上を行うため、給与  
カットなど緊急対応策の一部を解除することとした。ただし、メリハリを付け、  
経費等のその他固定費に関しては継続して削減に努める
- ・変動費に関しては、SE変動费率前期比3ポイント改善を見込む。プロダクト  
ミックスの影響などにより目標値は下回るが、前期に比べ着実に削減は進んで  
いる。削減の取り組みは今後もきっちり継続し、目標値を必ず達成

### ■「事業基盤の強化に向けた取り組み」

- ・SEセグメントにおいては、先端プロセスにおいて、コーターデベロッパーの実績が増加し  
ている。この状況を継続加速
- ・洗浄装置は、微細化、FinFETなどの技術水準が高まる中、当社が得意とする  
クリティカルな洗浄エリアが拡大し、当社の存在感がますます増すこととなる
- ・FEセグメントにおいては、太陽電池やリチウムイオン電池用装置の収益貢献時期の早期  
化に努める。さらに当社保有の塗布技術や真空成膜技術のアプリケーションを拡大させ、  
FPD以外での事業規模拡大を目指す
- ・MPセグメントにおいては、PODは今後成長が期待できるラベル・パッケージ業界に  
本格的に参入していくと同時に、CTPについても新興国での拡大を図っていく
- ・新規事業分野においては、検査分野、プリントドエレクトロニクス分野に加え、  
2013年8月にリリースしたがん細胞の3Dスキャナー装置販売を拡大させ、  
ライフサイエンス分野に本格参入していく

「収益改善の取り組み」「事業基盤強化の取り組み」を通して、今期業績を一層高めることは  
当然ながらも、来期以降の収益拡大につなげていく

2014年3月期  
連結業績予想

下期想定為替レート： 1米ドル= 95 円, 1ユーロ= 125 円

(単位：億円)

	2013年3月期			2014年3月期					
	実績 (据付完了基準)			予想 (8/9発表)			実績+予想 (11/5発表)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期実績	下期予想	通期予想
<b>売上高</b>	<b>1,094</b>	<b>903</b>	<b>1,997</b>	<b>1,090</b>	<b>1,020</b>	<b>2,110</b>	<b>1,111</b>	<b>1,158</b>	<b>2,270</b>
SE	797	609	1,406	750	650	1,400	756	803	1,560
FE	69	51	120	100	115	215	109	95	205
MP	225	237	463	235	250	485	241	253	495
印刷関連機器 (MT)	196	205	401	200	214	414	205	218	424
プリント基板関連機器 (PE)	28	32	61	35	36	71	35	35	71
その他(外部売上のみ)	3	4	7	5	5	10	3	6	10
<b>営業利益</b>	<b>▲ 12</b>	<b>▲ 35</b>	<b>▲ 48</b>	<b>25</b>	<b>40</b>	<b>65</b>	<b>30</b>	<b>47</b>	<b>78</b>
SE	▲ 7	▲ 29	▲ 37	-	-	-	28	-	-
FE	▲ 3	▲ 5	▲ 8	-	-	-	0	-	-
MP	7	7	14	-	-	-	10	-	-
その他および調整額	▲ 9	▲ 8	▲ 17	-	-	-	▲ 8	-	-
<b>経常利益</b>	<b>▲ 14</b>	<b>▲ 36</b>	<b>▲ 50</b>	<b>21</b>	<b>34</b>	<b>55</b>	<b>26</b>	<b>43</b>	<b>70</b>
<b>当期純利益</b>	<b>▲ 69</b>	<b>▲ 44</b>	<b>▲ 113</b>	<b>15</b>	<b>25</b>	<b>40</b>	<b>15</b>	<b>35</b>	<b>51</b>

2014年3月期 年間配当金予想： 1株当たり3円 (期末配当金)・・・変更なし

18

DAIIPPON SCREEN MFG. CO., LTD.

## 2014年3月期業績予想

これらの状況を踏まえ、

## ■2013年8月9日発表の通期業績予想から

売上に関しては160億円増 (SE：+160億円、FE：▲10億円、MP：+10億円)

営業利益に関しては13億円増

## ■配当金に関しては、1株当たり3円は変更なし

## ■収益改善への取り組みは、今後も継続していく

来期は半導体製造装置市場の成長が予想されるので、今期の活動の効果を来期にはしっかり収益に反映させ、市場好転のメリットを享受したいと考えている

**SCREEN**